

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's 広場

関連リンク

資料室



HOME | 資料室 | 一般教養 | 自己啓発 | 賀川豊彦 (17)

労働組合

労働者福祉・共済

一般教養

社会保障

労使トラブル法律相談Q&A

労働関係法

経営全般

人間関係とコミュニケーション

ライフプラン

男女共同参画

公務員関係法

日朝の歴史

7つの習慣

中東の歴史

ボランティア活動

環境活動

社会貢献活動

自己啓発

生涯学習

外交・防衛問題

資本論

教育カリキュラム

日本国憲法

賀川豊彦 (17)

賀川の最後の10年間は、健康の許す限り、教会の牧師兼巡回伝道者でした。

また平和運動にも注意を向け続けており、世界連邦運動の方針に沿って国際的な秩序を保とうと力説しました。彼の考え方は「友愛の経済」にまとめられており、その考え方は、戦争の原因は主要な強国の強欲と搾取とに根ざしており、平和と世界の富の平等な分配は、秩序ある世界経済と世界連邦によってのみ可能となるというものでした。

賀川の活動は健康が優れなかったために速度が落ちましたが、国際的な活動についてもこつこつと働き続けました。

1954年、米国とカナダへ最後の旅をした後は、病床からの主張が多くなります。

彼は繰り返し平和を求めるメッセージを語り、日本国憲法第9条を肯定し、日本が外的脅威に対してとるべき道は、侵略行為を予防できる警察力をもつ真の世界政府を創設することだと主張し続けました。

賀川の生涯にわたる働きゆえに、1954年にはノーベル平和賞受賞への運動が起こります。

その運動は広く海外にも広がり、シュバイツァー博士も陳情運動に加わってくれました。

けれども賀川はこうした支援にもかかわらず受賞することはありませんでした。

賀川が戦時中に反米の宣伝活動に携わったことや、反核運動に同調したことや、単にノーベル賞受賞選考過程の歪みだったのか、その理由は未だ不明です。

1959年にひどい風邪にかかっていたようですが、まわりの反対を振り切って、郷里の四国に伝道旅行に出かけます。

しかし船旅の途中で心臓の具合が悪化して倒れ、高松の病院に3ヶ月間入院させられます。

その後、東京の自宅で療養を続けますが、1960年4月23日息を引き取ります。

72歳の昇天でした。

賀川が奮闘した改革の多くは現代の社会に数多く具体化しています。

日本は今や、普通選挙権、組合や政治団体の自由、十分な医療保護、優れた教育制度、かなりの住環境、大幅に改善された土地所有権、その他多くの社会事業が育っています。

しかし、もし賀川が今日生きていたなら、この今の状況をどう考え、どう行動するでしょうか。

(参考文献)

ロバート・シルジェン「賀川豊彦 愛と社会正義を追い求めた生涯」

神戸学生・青年センター編「賀川豊彦の全体像」

賀川豊彦記念講座委員会「賀川豊彦から見た現代」

賀川豊彦「貧民心理の研究」

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>> 一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE 【ワーカーズ・ライブラリー】

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.